

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600070		
法人名	医療法人 田中会		
事業所名	グループホーム陣内		
所在地	熊本県菊池郡大津町陣内1167-5		
自己評価作成日	平成28年11月16日	評価結果市町村受理日	平成29年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は入居者の方のふるさとを訪問したり、行きたい所を聞き、個々に応じた外出支援をご家族の協力のもと実施している。ご自宅や自宅周辺の地域へドライブなど行い、入居者の楽しみに繋がっている。ホーム前の菜園で季節に応じた野菜を作ったり、収穫しそれを入居者の方と一緒に調理し食べることが出来る。又音楽療法士による週2回の音楽療法では回想法や声を出し歌う事で健康増進、認知症予防となっている。初めての試みである地域の方へ音楽療法を知って頂くために声を掛け、音楽療法を実施し大盛況であった。当ホームは併設の老人保健施設のドクターや看護師がおり、入居者のことに関していつでも相談できる。又看取りに対しても勉強会があり、日頃から入居者の情報共有もできており、こころ強い。又アロマの勉強会もあっており、実際にホームにも取り入れ、夜間の安眠や個々にあったアロマをディフューズすることでリラックスして過ごして頂いている。毎月ホームでの様子をぼっぽ通信という形で発信し、ご家族とのつながりを大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

百年の歴史をもつ医療法人によって建てられた、医療と介護の複合機能施設の一角にある『グループホーム陣内』は、昔ながらの良き伝統を残した地域の中で管理者を中心にケアの統一によって、入居者が不安のない日常生活の支援に努めている。開設時より継続された取り組みに加え、今年度は家族の協力も得ながら「ふるさと訪問」に取り組んだり、～家族紹介～のコーナーを広報誌「ぼっぽ通信」に設けるなど、入居者と家族との絆に重きをおいた支援が行われている。採光の良いリビングホールでは、庭先を眺めながら音楽を聴いたり、自主メニューのカレー作りで食材切りをされる女性入居の手さばきやエプロン姿が日常の姿を現していた。今後も入居者・家族が『陣内』で良かったと思ってもらえるホーム運営に努めていきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げホーム内の分かりやすい所に掲示しており、職員は理念に沿ったケアを実践している。新しい職員には理念の説明を行い、同じラインに立ったケアを行なう。	開所時に作成した理念を継続しており、目に付く場所への掲示により来訪者への啓発にも繋げている。管理者は理念と共に掲げた『家庭的な雰囲気の中で、その人の能力に応じてその人らしく日常生活を送るお手伝いする』を、ホームの姿勢とし指導を行っている。また、入居者が一人にならないような、職員の気づきや目配りなどについても共にケアに業務にあたる中で伝えている。	開所時からの理念を大切に日々の業務にあたっている。今後は新年度を迎える前に継続や見直しなど理念について話し合いの機会を持つことも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的(1回/2ヶ月)に開催される「中陣内地域福祉定例会」に参加しホームの様子を伝えたり、意見の交換を行っている。出来る限り地域の行事への参加を行い、交流を深めている。又、中陣内地区子供会の地蔵祭りは来設あり。入居者の方は各自お賽銭を持参しお参りされている。NPO法人「みんなの家の子供たち」との交流を促進させており、入居者の方の楽しみを提供している。	地域の中のホームとしてできる限り交流の機会に繋がるような場所へ出かけたリ、法人と協力しながら地域貢献に努めている。定期的で開催される地域の福祉定例会は、ホームの様子を伝えながら意見交換を行っており、入居者の外出の情報を得たり、地域の良さを改めて知る機会となっている。また、継続されている「みんなの家の子供たち」との交流は、入居者の笑顔を引き出しており、変わらぬ交流を続けたいとしている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域との座談会や運営推進会議を通じて認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。 ・家族介護教室開催時に認知症についての勉強会を行い、少しずつ地域の方も認知症への理解も高まってきた。地域の安心声かけ訓練に参加し、認知症に対しての理解を深めている。定期的な勉強会の開催も実践できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域の方や行政の方の参加をいただき、ホームの現況報告及び活動報告を行い、参加者の方の意見や問い合わせ、家族の方からの意向を伺い、ホームでの生活向上や、行事に反映させている。今回は熊本地震もあり、行政や、消防署にお勤めのご家族からのアドバイスも頂く。	二ヶ月ごとの定期開催が実現している会議は、併設の認知症デイサービスと合同で行われている。家族・地域代表者や行政、包括センター職員などの参加のもとセンター長も参加しており、母体老健施設やメディケアセンターの持つ機能などを伝えながら、相談事項に答えている。また、地域にとってなくてはならない施設運営を目指している事を伝え、変わらぬ理解や協力を依頼している。今回の熊本地震を受け、会議の中では災害対策が議題にも上がり、被害状況報告後は、参加者よりアドバイスが出されている。	毎回参加者との有意義な意見交換が行われている事は聞き取りや記録物からも確認された。今後は「みんなの家」の関係者などにも参加を呼びかけることで幅広い意見の収集に繋がると思われる。また、会議の前などに、ホーム内の様子(入居者・トイレ・台所など)を実際見てもらいスタートすることで、報告内容がよく理解できるものと思われる。取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・広報誌配布や運営推進会議などを通じて、ホームの実情やサービスの取組みを文書や電話で伝えたりしている。介護保険に関する不明な点は大津町役場の担当者に相談しながら、共に解決していくように連携を図っている。 ・感染情報(ノロウイルスやインフルエンザ等)は、メールを通じて共有している。熊本地震の際は支援物資、被害確認などあり行政、市町村と連携はとれている。	運営推進会議や広報誌などによりホームの実情を積極的に伝えており、行政担当者からは適宜アドバイスや指導を受けている。また、高齢者医療や介護保険など必要な情報は家族へもその都度発信しており、不明な点や質問があった場合は、行政担当者を中心に相談を行っている。また、今回の熊本地震では、支援物資をはじめ早急な対応を受けたことに感謝を語っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束は絶対しないように決めている。 ・ホーム内の出入口は開放している。	拘束については、研修会(法人・ホーム)や普段の業務の中でも報道ニュースなど事例をあげながら周知徹底を図っている。また、拘束に関する職員アンケートを実施し、ケアの振り返りを行っている。玄関はオープンであり、外出希望に応じている。現在、居室内にセンサーマットは置かれていないが、安全のため1名の方が感知センサーを使用されており、家族へも説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については勉強会を開催し、行動だけでなく言葉遣いによる虐待にも十分注意を払うように務めている。 ・どんな場面でも虐待に繋がることがないように職員同士で注意し合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護及び成年後見制度についての必要性和仕組みについて学習し、理解を深める努力をしている。 ・家族からの質問・相談があった場合には真摯に対応するようにし、不明な点などは施設長と相談し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前の事前面談や重要事項の説明を密に行うことで本人様・ご家族様の理解・納得を図り、不安や疑問のない状態で入居いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱の設置は現在も継続している。 ・ご指摘いただいたことやご要望のあったことについては検討し運営に反映させている。 ・面会時にもご家族と話す時間を作り意見や要望を聞き入れている。「ぽっぽ通信」を毎月発行し早目の行事案内や情報交換に努めている。	家族の面会時には笑顔で迎え入れ、ゆっくり過ごしてもらえるようにしており、意見や要望など自然に引き出すよう努めている。また、ホームの状況や行事案内は早めに広報誌で発信しており、家族の参加協力やホームへの理解に繋げている。入居者の要望は、あらたまった時間ではなく、日常の関わりの中で収集するようにしている。本人・家族各々から出された意見などは、内容に応じて職員間や法人も含め話を行い、サービスに反映させることとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議規約に準じて毎月職員会議を行い、職員の意見や提案を聞き実践している。 ・全員で考え改善できるものは直ぐ実行している。	毎月の職員会議を意見や提案を聞く機会としている他、管理者は共に業務にあたりながら職員の提案などを常に確認している。また、センター長も日常的にホームを訪れ、管理者と連携を図りながら、入居者・家族、職員の意見を活かしたホーム運営や、職場環境の整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・スタッフの勤務状況については、勤務表で状況把握されている。 ・勤務希望も月3日まで受け入れられている。 ・時間外勤務については超過勤務の支給をしている。 ・勤務評価シートを取り入れることで本人の努力・頑張った点、反省など自己評価、上司の一次、二次評価を行い、評価によっては給与、賞与に反映されており、向上心を持って働けるような環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月に一度は各担当者がテーマによって勉強会を開催することで、質の向上に努めている。各職員はそれにより知識や仕事に対する意欲を高めることが出来るようになった。 ・研修会参加者による復講で当人を始めとして職員の知識を深める場を設けている。 ・併設の介護老人保健施設「おおつかの郷」で実施される定期的な勉強会に参加して、知識及び交流を深めている。 ・定期的に開催される研究発表大会で自分たちが研究したテーマを発表し意識を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・熊本県グループホーム連絡会加入により、同業者との交流を深め、情報交換、情報の共有を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に他の施設職員と事前調査をおこない、本人・家族についての綿密な情報収集を行っている。 ・新規入居時事前に得た情報をもとに、本人、家族に確認し、本人家族の意向を伺い、安心したホーム生活が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・これまでの入居者の生活状態を伺い、生活パターンを把握するようにしている。 ・入居される時は全職員でお迎えし、家庭的な雰囲気作りが出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族、本人の想い、希望を伺い当ホームで出来る限り支援し、本人の回復又は現状維持に努めている。 ・併設のリハビリの職員に利用者のエクササイズについて助言を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員が一方向的にケアする立場にならないように、利用者と一緒にお茶を飲んだり、料理や歌の時間を設け、共に過ごし支えあっている。 ・台拭きや、茶碗洗い、洗濯物たたみなど御本人の得意とすることは率先していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員は家族が面会のたびに情報交換を行い情報を共有している。 ・食事が入らない時、ご家族と一緒に外食や、本人の好きなものを持参していただいたり、生活に必要な物品を持参してもらうなど、常に本人とご家族との繋がりを大切にし、本人と御家族の絆が消えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・24時間いつでも面会できるように環境を整えている。 ・自分が住んでいた地域のふるさと訪問を実施している。又地元の飴市など、イベントに参加するなど積極的に行っている。 ・家族や友人が面会に来られた時は、テーブルや椅子、お茶など準備し、話しやすい雰囲気作りに努めている。 ・故郷訪問の際車窓からのお墓参りを支援している。	入居者にとって大切な家族との関係が途切れないよう、面会への働きかけやふるさと訪問などに取り組んでおり、面会も24時間できるようにしている。また、地元で開催される飴市やイベントに出かけ昔を思い起こしてもらっている。女性入居者には、特に昔取った杵柄で家事作業(洗濯物たたみ・縫い物・茶碗洗いなど)の場も設けている。	入居者にとって飴市での飴同様、大津の銘菓『銅銭糖』を、以前大変喜ばれたようであり、是非また、提供される機会をもって頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・現在、利用者同士の馴染みの関係が出来ているが、トラブルになりそうな時はスタッフが介入し、トラブル防止に努めている。 ・音楽療法、ボランティア、人型ロボットペーパーくんなどを通して、楽しみや喜びを利用者同士共有や関わりが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・夏祭りなどの行事の際にはボランティアとして参加いただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日の会話の中でさり気なく本人の思いや暮らし方の希望を聞き取るように心がけている。 ・本人の希望があればご家族とも相談し、体調なども配慮した上で本人の思いを取り入れることが出来るよう務めている。	職員は日常の関わりの中で一人ひとりの思いや意向、暮らしへの希望などを把握するように努めている。内容によってホームだけでは対応できないことは、家族に協力を得ている。自分の意向などを発せられる方ばかりではなく、難聴の方に対しては筆談をしたり、職員が表情などから察し、本人本位に検討を行い、ホームでの生活が少しでも意向に添ったものとなるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・新規利用や基本情報に変更になった場合は、これまでの既往歴や生活歴の情報収集、本人様やご家族様との会話、これまでの利用機関からの情報等により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の状態観察、申し送り、介護記録、ケアノートの活用により現状把握と情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3ヶ月ごとのモニタリング時には全スタッフからの情報収集、本人・家族からの要望を伺いケアに活かせるよう取り組んでいる。 ・体調や支援内容に変更があった場合は、介護記録、ケアノートを用いて周知、意見を求めている。	介護計画作成担当者は全職員からの情報や本人・家族の要望、医師の意見などを活かしながら、実践可能なプラン作成に努めている。また、体調不良や入院などがあった場合は、その都度見直しを行っており、変更内容はケアノートなどにより周知を図り、意見などを求めている。プランの説明にあたっては、わかりやすい内容で家族に確認を行いながら進め、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ケアノートを活用し、職員間での情報の共有、ケアの実践に努めている。 ・経過記録に日々の様子を残し、情報を取得し介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時の状態に応じて受診・往診、必要時は専門医の受診も出来るよう支援している。 ・フットマッサージの使用により下肢のむくみの軽減にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・各行事の際のボランティア参加、防災訓練時の消防署の指導協力、近隣の美容室利用時の協力など得られるよう支援している。 ・熊本地震の際は地域の消防署からの安否確認もあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時、専門医の受診も含め、希望されるかかりつけ医の確認をしている。ご家族が専門医へ受診される際に紹介状を希望された際は、併設の天津じんないクリニック医師へ伝え依頼することも出来ることを伝えている。 ・熊本セントラル病院受診時は利用者の方を病院へお連れし、ご家族と待ち合わせや付き添いなど受診の支援を行っている。	入居時に専門医も含め、希望のかかりつけ医を確認している。現在全員の方が了解のもと併設のクリニックをかかりつけ医とし、月1～2回の受診を支援している。また、専門科受診には家族対応を基本とし、必要な情報提供を行い、スムーズな受診に繋げている。職員は法人医師との連携や毎朝10時や必要に応じたバイタルチェックなど、健康管理に努め家族へも身体状況をこまめに伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日のバイタル測定、排泄・食事や水分の摂取量の把握、申し送りをし情報を繋いでいる。また、体調変化時は連携看護師へ報告。ホームで出来る看護処置の実施や介護のケアのアドバイスを受けている。看護師の判断で診察必要と判断した時には、その旨をご家族へ速やかに連絡・報告し希望病院を確認し併設の天津じんないクリニックや熊本セントラル病院、武蔵ヶ丘病院へ受診となる。 ・定期のクリニック受診時、日頃の情報を「クリニック受信情報用紙」に記載している。 ・夜間は隣接の介護老人保健おおつかの郷看護師オンコール体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時、大津じんないクリニックから入院先の病院へ情報提供書を出してもらっている。 ・ホームからは介護サマリーを作成し、入院先の病院で出来るだけ同じケアを受けることで混乱なく過ごすことができ、治療に専念できるよう支援している。 ・入院中の見舞い、その際に可能な限り病院関係者に現状を聞く。またご家族と連絡を取り合うことで状況を把握しホームへ迎え入れる準備を常に行っている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の蘇生意思表示記録(DNR)にて状態変化時にどこまで望まれるかを把握している。 ・看取りまで望まれる利用者の方(家族)に、ホームでできるケアや医療の説明をして納得していただいた方に看取りケアを行うこととしている。利用者、御家族の思いを聞きながら、選択出来るように配慮している。看取りの同意書を交わし、常に職員が家族の気持ちに沿ったケアが出来るようケアの統一を図っている。 ・開設から看取り5名実績あり。 	<p>重度化や終末期支援については、希望された場合はホームにできる対応について説明を行い、同意書を交わしている。これまでも家族の宿泊や併設クリニック・栄養課の協力も得ながら看取りの事例があり、支援後はデスカンファレンスを開催している。センター長は看取りは家族との信頼関係が重要であると語っており、状況によって変化する本人・家族の思いを確認しながら今後も出来る最良の支援に努めたいとしている。</p>	<p>これまでの終末期支援では、夜勤時の不安などメンタル面を職員同士でサポートしながら取り組んでいる。今後も人生の先輩である入居者に最良の時間を提供していきたい。</p>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの設置。 ・マニュアルに沿った対応、電話連絡までを実践訓練としている。 ・AEDを常時目の届く場所に設置し、必要時は誰でも操作できるよう確認しあっている。 ・救急カート、AEDの定期点検実施している。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回(春・秋)、法人による災害訓練の実施がされ、ホームでは利用者も参加した訓練を実施している。 ・地域との協力体制はできている。 ・地域の消防団との連携を運営推進会議で提案している。 	<p>法人全体で災害訓練を実施しており、今年度は8月と3月の予定である。緊急連絡網が稼働しているか？や、昨今ではセキュリティの強化を図っている。運営推進会議の中でも今回の熊本地震や台風の後には、地域連携を含め課題などについて報告や意見・提案などを受けている。食備蓄については、委託業者が3日分を確保している。</p>	<p>今後も火災・自然災害様々な想定を行い、入居者や支える職員の安全確保に努めていきたい。</p>

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者に声掛けする時は必ず苗字や名前にさん付けで呼ぶように心がけている。 ・沢山の人の前で個人的なことは言わないように心がけている。 ・排泄や入浴時の声掛けは耳元でささやく、恥ずかしい部分を見られない様にと、個々のプライバシーを損なわないように配慮している。 		入居者の呼称は必ず苗字や名前にさん付けで対応することを共有している。また、トイレ誘導の際もさりげない声かけを心がけており、台所作業をされていた方に「エプロンを取りましようかね！トイレに行く時は！」と、耳元で優しく声をかける光景があった。個人情報や守秘義務については、法人全体で周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、排泄、などの声掛けは利用者にあった言葉を選んで、「どうなさいますか」と自分で決めていただくように心がけている。 ・散歩等ご本人が希望する行動については、意志を尊重し、自分の意志を表出できないご利用者には声掛けに配慮しながら、希望が叶うような生活を支援している。 			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きたい歌や、見たい映画があれば、お一人おひとり尋ねながらクロームキャストを使用しその人の希望に添えるように心がけている。 ・自立度の高いご利用者には自分の時間をお好きな様に過ごしていただく事を優先している。 			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時の整容や更衣はご本人の意向に添えるよう支援している。 ・ご本人やご家族が希望される時は近くの美容室へお連れしている。 ・外出時は自分でお気に入りの洋服を職員と共に選んでもらっている。 			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回の自主メニューを実施しており昼食と一緒に作ったり、テーブル拭き、ご飯をついたり、家庭菜園でとれた旬の野菜で料理をしてもらったりしている。 ・天気が良い日はテラスでランチやおやつを楽しんでいる。 	<p>献立や調理は法人厨房で行われているが、月1回入居者の希望や季節感を取り入れた自主メニューの日(煮染めや餃子・カレーなど)を設けている。また、菜園で野菜を育てており、大津の特産でもある唐芋の収穫では大喜びされたようであり天ぷらにして食卓にのぼっている。身体状況に応じた食形態で、職員は食事の雰囲気配慮しながら見守りや介助を行っている。</p>	<p>自主メニューは入居者や職員にも好評であり、今後も回数を増やす事で更に食事の楽しみに繋がると思われる。また、食事のエプロンについては、首に負担がないか？常に必要か？など、使用方法について検討されることを期待したい。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の食事量、水分量は個人ケアチェック表で管理して、食事摂取量が少ない方には管理栄養士と相談しながら、その方に合わせた食事形態や栄養補助食品を提供している。嚥下困難な方にはトロミや、ペースト食、お粥で対応している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、毎食後本人に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内の状態によっては歯科医師の往診、希望者には歯科衛生士による口腔ケアマッサージを実施している。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を記入する事で排泄パターンを把握し、早めの誘導、声かけトイレでの排泄を心がけている。 ・夜間オムツの方は日中はリハビリパンツへ、夜間リハビリパンツの方は日中は布パンツにて対応している。夜間も排泄の失敗がないように早目の声かけやトイレへの誘導を行っている。 	<p>職員は個別のチェック表でパターンを共有し、トイレでの排泄に繋がるよう声掛けや誘導を工夫している。また、夜間帯にポータブルトイレを利用する入居者に使いやすい動線を検討しながら、衛生的に管理している。台所仕事の後エプロンはずししながらトイレに向かわれる入居者の姿が見られた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の摂取量の把握に努めており、個々の好みに合わせて、ORSゼリー、牛乳、麦茶、コーヒーで対応している。 ・毎日排便の確認を行い、いも類や野菜の摂取に心がけたり、腹部マッサージ等実施している。 ・簡単な体操、ラジオ体操など運動の声かけも行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴希望者はいつでも受け入れ出来る体制を整えている。 ・その日の入浴予定者がわかるように掲示しているが、入りたくない方の意向も聞いている。 ・声かけにて着替えの準備を一緒に行い本人様の意向に沿った服を着て頂いている。 ・お茶、入浴剤、ゆず湯など変化をつけ入浴を楽しんでいただいたり、個々に合わせ、普通浴・機械浴・シャワー浴・足浴等にて対応している。 	入居者が週2～3回入浴できるよう支援している。その日の予定者を掲示して紹介しながら、事前準備なども共に行い、入浴への気分も高めている。夏場もシャワーだけでなく湯船に入ってもらいながら、個々の希望する湯温や入浴時間に配慮し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の睡眠状態の把握に努め、睡眠不足気味の方には昼寝の声かけ、夜間寝付きの悪かった方には遅めの起床等状況に合わせた対応をこころがけている。今年度からアロマを取り入れその人に合わせたアロマを使用し、リラックスして安眠効果も見られている。 ・昼食後にはゆっくり出来る時間を設けている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・大津じんないクリニック受診時は、クリニック受診情報用紙に変更した内服などを医師又は看護師が記載している。その情報用紙は利用者個人のファイルに綴じ込んでいる。 ・院外処方により居宅療養管理指導が受けられるようになったため、服薬の管理については担当薬剤師が実践している。内服薬については不明のことはその都度相談している。臨時薬や湿布などについては担当看護師に相談し、支持を受けたとおりに与薬、貼用している。 ・服用介助時は、与薬ミスもないように利用者の薬袋の名前を見せて、本人より名前を言ってもらっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の野菜を使って団子汁作り、煮物料理や誕生会、中庭でのランチや茶話会等を楽しんでいただいている。 ・自主メニューの取り入れにより、利用者の得意な料理を一緒に作ったりして支援している。 ・日常での家事等、役割を持っていただけるように支援している。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の紫陽花・ふきのとう・さくら・コスモスの花見などで季節を肌で感じていただけるようにしている。 ・移動販売での買い物、散髪、パーマの支援も行っている。 ・故郷訪問により、本人のなじみの場所、行きたい所への外出支援を行っている。 	広い法人内は四季折々に草花が咲き、入居者が職員と共に外に出ては花を愛でたり、菜園での野菜作りに参加している。近隣にある保育園児との交流は続いており、今回初めて子供たちのもとを訪れ親交を深めている。本年度よりスタートした“ふるさと訪問”には家族や地域の協力を得て、入居者が自宅やその周辺を訪れる機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはお金はお持ち頂いていないが、ご本人の能力によってお金を使える能力のある方には、買い物、散髪など自分で支払っていただくように支援している。週一回の移動販売も利用していただいている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことが可能な方には、適宜手紙や、はがきなど本人希望時に支援している。 ・毎日息子様と電話で会話される方には職員で電話番号を回したり、椅子の準備をするなど支援している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じる飾り付けや、習字、貼り絵の展示を行っている。又季節の花を利用者に生けてもらって玄関、リビングに飾ったり、昔の思い出の写真や、現在の行事の写真などを展示するコーナーを設けている。 ・不快な音や光がないように配慮し、廊下やリビングは調節できる照明ブラケットを設置している。	クリスマス飾りが済んだリビング内は、外出時の入居者の写真や書道の作品が飾られている。熊本城の大型のちぎり絵は、震災で大きなダメージを受けた熊本のシンボルを早く元の姿にしたいという、入居者と職員の思いが込められている。掃き出し窓からは採光が十分に入り、関係者が気軽に顔を出すスペースでもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにはソファを設置して、入居者同士の憩いの場を提供している。自分の落ち着ける場所はそれぞれ確保しておられる。 ・利用者間でトラブルが発生しそうな時は職員が間に入ってさり気なく話題転換をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にご家族と相談し使い慣れたものや、気に入っているもの(タンス、椅子、人形、枕、布団、バッグ、若いころの写真)を持参していただき、個性のある居室作りの支援に務めている。	持ち込みの量に多少はあるものの、ゆっくりとしたスペースに各自必要な物を置かれている。訪問当日も「私の部屋に来てみてください！」と、嬉しそうに案内されたことから居心地の良い空間である事が窺えた。看取り支援の際も、これまでの生活の延長として捉え、ベッド生活が中心になれば天井に入居者の好きな絵を貼って楽しんでもらうなど、大事な住空間として家族と相談しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は段差を解消し、居室、トイレ、浴室などのドアは引き戸になっている。 ・要所に手すりを設置し、トイレ、浴室などにもわかりやすいように場所を明記している。		